

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	ひょうごけんりついたみこうとうがっこう				②所在都道府県	兵庫県
27～31	① 学校名	兵庫県立伊丹高等学校					
② 象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	全日制 普通科 949名在籍	
普通科	320名	40名	40名		400名		
⑥研究開発構想名	『三方よし』の精神を継承するGBL(グローバルビジネスリーダー)育成プログラム開発						
⑦研究開発の概要	継続的な発展に不可欠な「三方よし」の精神を備えたグローバルビジネスリーダー育成プログラムを開発する。地元のグローバル企業の実地調査と国際交流姉妹校との連携を基に多様性の受容力と好奇心を育て、日本の「食」の強みを再発見し、具体的なアイデアにして、日本語でも「英語の型」でも発信できる生徒を育成する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>グローバルビジネスリーダーを、「日本文化の理解の上にたち、異文化を受容しつつ差異に目を向けてビジネスチャンスを見だし、アイデアの実現に向けた交渉を経て地域や社会に貢献する人材」と定義づけ、日本を再発見し、その強みを発信する実践プログラムを「食と健康」をテーマに構築する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>〈現状の分析〉ア) 地域からの厚い信頼と支援(殊に小西酒造、松谷化学工業、三井住友銀行との連携実績) イ) 生徒の高い自主性と活動意欲 ウ) 進路に表れる多様な価値観と高い進学意欲 エ) GTEC 継続受験結果が示す英語運用力の高い伸び オ) 独自の英語四技能伸長プログラムやアクティブ・ラーニング型授業の展開が示す教員の高い士気 カ) 国際交流姉妹校との年1回の相互ホームステイが示す多文化受容力の高さ</p> <p>〈課題〉40年を越える総合選抜入試の影響が残り、現状に満ち足りがちな傾向がある。上記ア) とイ) とカ) を生かし、エ) とオ) を更に推進してウ) を伸ばす。</p> <p>〈研究開発の仮説〉日本の地方生活文化は繊細で美しい心性と深い知恵が形作った。日本の地方生活文化と「三方よし～売り手よし、買い手よし、世間よし～」の互惠の精神は、今後日本が継続的に発展するための重要な基盤であると考えている。高校生が、「三方よし」で地元へ貢献してきたグローバル企業、連携大学、国際交流姉妹校との連携による調査活動を通じて地方生活文化を見直し、再発見した日本の強みを「食」をテーマに具体的なアイデアにし、「英語の型」で発信する瞬発力の訓練によって、将来、日本文化に立脚したビジネスアイデアを発信して、日本と地域社会、さらには世界各地の発展に貢献できるグローバルビジネスリーダーになる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>①成果発表会を開催する。対象者は、ア) 研究開発関係者 イ) 国際交流姉妹校関係者 ウ) 特に阪神間の中学生および一般の方 エ) 地方都市の活性化担当者 オ) 全国の特に普通科高校関係者 カ) マスコミ とする。グローバルビジネスリーダーへの憧れを次世代につなぎ、日本の地方活性化の端緒になり、普通科のキャリア教育の新たな手法として成果を広く知らせる。</p> <p>②国際交流姉妹校との共同調査を行い、日本食の新たな可能性を「おいしく食べて健康になる新しい食」として提案する。NYと台中で「Japan Fair(仮称)」を開催して、日本への興味と関心を一層集める。</p> <p>③成果のまとめを作成・配布する。</p> <p>④日・英・中、三カ国語のホームページで研究開発の進行状況と成果を発信する。</p> <p>⑤伊丹市商工会議所、ジェトロ、新関西国際空港(株)のイベントで成果を発信する。</p>					

⑧ -2 課題研究	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>「総合的な学習の時間」や本校で開発中の4技能育成英語授業を通して培った表現力と、「英語の型」で発信する力を土台とし、企業、大学、国際交流姉妹校と連携して「食と健康」をテーマとした以下の課題研究を進め、「おいしく食べて健康になる新しい食」の提案へとつなげる。</p> <p>ア) 食文化の探求</p> <p>日本の地方生活文化の変化に着目し、嗜好の変化や世代間の差異を探る。 伊丹・NY・台中の高校生の食行動や家庭の食文化、健康との関連などを追及する。 大学や研究機関の協力のもと、アメリカ・東アジア文化と食への理解を深める。</p> <p>イ) 食のビジネス展開の探求</p> <p>老舗小西酒造の「三方よし」の創業精神を学び、新時代の経営戦略、多様性を受け容れた食文化提案の仕方を探る。 「デンブン」総合メーカー松谷化学工業の希少糖開発の道のりや、B to Bの営業活動を学び、フィールドワークを通して海外販路開拓戦略を探る。 経済・金融の動きや食の流通を三井住友銀行から学び、「食」の可能性を追求する。</p> <p>ウ) 日本の食の強みの発信</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>〈実施の流れ〉</p> <p>① 1年生は320名全員対象。「総合的な学習の時間」を中心にグループワークによる課題研究を進める。地元の食文化調査、留学生との食文化交流から、世界の食文化の差異に視野を広げ、国際交流校のある台中での聞き取り調査を行う。年度末に成果発表会を開き、2年生で活動を継続できる40名を投資活動に見立てた参加者投票を資料に選抜する。</p> <p>② 2年生は選抜者を対象に「総合的な学習の時間」を中心に課題研究を深める。企業の国内・海外拠点を訪問見学して、なにを販売しているか、なぜここでそれを販売するのかを探求するフィールドワークを行う。国際交流姉妹校での食文化行動を探るフィールドワークおよび「Japan Fair (仮称)」を開催し、日英両語による成果発表会を実施して3年目継続者30名を選抜するとともに、全生徒の参加意欲を高めるため追加の参加者10名を追加選抜し、40名で3年目の研究活動を継続する。</p> <p>③ 3年生は今までの成果を基に、日本の強みを「おいしく食べて健康になる」ビジネスアイデアにして提案し、英語による論文作成と発表を行う。選抜された生徒の発表を、機会あるごとに全校生対象に行い啓発に用いる。</p> <p>〈検証評価〉</p> <p>① 生徒個々人のポートフォリオ ② アンケートの実施と分析による検証 (対象・回数を可能な限り広げる。) ③ 生徒による相互評価と成果発表会での投票 ④ 大学教授や企業関係者による評価 ⑤ 校内委員会 (SGHプロジェクトチーム) による検証と評価</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>総合的な学習の時間 (1単位) に加えて、土曜授業や夏期・冬期・春期休業期間を利用してのまとめ取り (1単位相当) によって実施。</p>
⑧ -3 上記以外	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>「英語の型」で発信できる四技能伸長プログラムの開発をする。現在試行中のプログラムを学校設定科目として独立させて完成する。GTEC 継続受験結果によって検証する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</p> <p>特になし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備, 教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <p>海外複数箇所へ生徒を派遣するための条件整備 国際交流姉妹校とTV会議・NET会議を実施する施設設備の充実</p>
⑨ その他 特記事項	<p>特になし</p>

ふりがな	ひょうごけんりついたみこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	兵庫県立伊丹高等学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	209人
	SGH対象生徒以外:		75人	81人	人	人	人	87人
目標設定の考え方: 26年度、社会貢献活動に50人、自己研鑽活動に35人が取り組む。計85人は全体の9%に当たる。31年度SGH対象生徒は380人である。5年後の目標値をSGH対象生徒は55%、対象外生徒は15%とする。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	209人
	SGH対象生徒以外:		16人	20人	人	人	人	87人
目標設定の考え方: 26年度は、海外研修に20人が参加した。これは全体の2.1%に当たる。5年後の目標値を、SGH対象生徒は55%、対象外生徒は15%とする。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:		33%	43%	%	%	%	50%
目標設定の考え方: 年度当初の調査で、「英語を身につけたい程度」に対する回答は次の通りである。①「国際社会で活躍」(15%)②「大学での専門教育を英語で学ぶ」(5%)③「海外進学を目指す」(2%)④「海外の高校の授業に参加できる」(6%)⑤「ホームステイや語学研修を楽しむ」(15%)⑥「英語で日常的な会話を楽しむ」(50%)⑦「特に利用を考えていない」(7%)。①～⑤を選択した生徒数を、「将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒」とすると、43%である。5年後にはSGH対象生徒は90%、対象外生徒は50%とする。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	38人
	SGH対象生徒以外:		3人	2人	人	人	人	29人
目標設定の考え方: 26年度、「第5回いっしょに読もう！新聞コンクール」(日本新聞教育文化財団)において奨励賞の生徒や、「国際高校生選抜書展」(毎日新聞社)において3年連続入選した生徒がいる。これは全体の0.3%である。SGH対象生徒の目標値を10%、対象外生徒は5%とする。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:		0%	26%	%	%	%	40%
目標設定の考え方: CEFRのB1～B2レベルに当たるGTECスコアをCEFRのSCALEとGTECのCAN-DO STATEMENTSを基に次のように設定する。B1レベル以上はGTECのグレード5:トータルスコア520～(海外の高校の授業に参加できるレベル)、B2レベルはグレード7:トータルスコア710～(大学での専門教育を英語で学べるレベル)と読み替える。現3年生は10月受験時点で、B1レベル(GTECグレード5)以上が83人で全体の約26%である。そのうちB2レベル(GTECグレード7)以上に全体の約1%にあたる3人が到達した。1年間のスコアの伸びは全国平均30～40である。したがって在校生は、卒業時にB1レベル以上に到達するのが全体の約25%と予想する。この数値を5年でSGH対象生徒は90%、対象外生徒は40%、全体としては60%とする。さらに、B2レベル以上に到達する生徒は全体の5%を目標とする。								
(その他本構想における取組の達成目標:就業体験(インターンシップ、看護医療体験等を行った生徒数))								
f	SGH対象生徒:							95人
	SGH対象生徒以外:		24人	28人				58人
目標設定の考え方: 26年度、兵庫県教育委員会、兵庫県警察本部に3人、また看護医療体験は25人である。計28人は全体の3%である。5年後の目標値を、SGH対象生徒は25%、対象外生徒は10%とする。								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:		12%	15%	%	%	%	25%
目標設定の考え方:平成25・26年度、「グローバル30」や「グローバル人材育成推進事業」に採択された大学進学者、25年度37人、26年度45人を基に設定した。目標値をSGH対象生徒は70%、対象外生徒は25%とした。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人	人	人	人	3人
目標設定の考え方:26年度調査で「海外進学を目指す」生徒は2%であった。34年度SGH対象生徒は20名である。目標値としてSGH対象生徒は50%、対象外生徒は1%とした。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	10%
目標設定の考え方:今後追跡調査を行う。現在の記入は予想値である。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	56人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	120人
目標設定の考え方:現状把握では、各学年20人程度である。これは学年の6%に当たる。33年度、SGH対象生徒で大学に在学する数は、各回生それぞれ20人であり計80人である。目標値をSGH対象生徒は70%、対象外生徒は10%とした。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	0人	0人	人	人	人	人	人	40人
	目標設定の考え方: 2年生40人が、各課題研究のテーマごとに実地調査や海外視察及び研修を行う。目標値は40人である。							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	0人	0人	人	人	人	人	人	380人
	目標設定の考え方: 小グループや個人が企業や大学・関係機関への国内調査及び研修を行う。SGH対象生徒は、30年度380人である。							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	1校	2校	校	校	校	校	校	5校
	目標設定の考え方: 26年度に国際交流を行ったニューヨーク市立大学附属バルーク高校と台中第二高級中学との連携を発展継続する。また新たに共同研究を行う教育機関を作る。							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	9人	5人	人	人	人	人	人	150人
	目標設定の考え方: 26年度、3学年あわせて5名の教授と連携した。SGHでは、講演及びグループや個人ごとの大学訪問、研究室視察、成果発表会を行う。(大学教員5人×6回)(学生5人×24回)							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	0人	8人	人	人	人	人	人	216人
	目標設定の考え方: 26年度講演会などを通じ企業の方8名と連携した。今後講演及びグループや個人ごとの企業訪問、研究室視察、調査等を行う。2年生では連携企業の海外支店視察を行う。また、成果発表会の検証評価を依頼する。(企業家6人×12回×3企業)							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	8人	15人	人	人	人	人	人	380人
	目標設定の考え方: 26年度、防災をテーマとした大会やビジネスコンテストに15人が参加し、これは全体の1.6%に当たる。国際関係、ビジネス系のコンテストやコンクール、企業主催のコンテストに個人やグループとして出場する。目標値を100%の380人とする。							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	15人	23人	人	人	人	人	人	30人
	目標設定の考え方: 26年度、ニューヨーク市立大学附属バルーク高校および台湾国立台中第二高級中学から訪問団を受け入れた。(引率教員5人、学生15人)目標値を30人とする。							
h	先進校としての研究発表回数							
	1回	2回	回	回	回	回	回	25回
	目標設定の考え方: 26年度は「高等学校魅力・特色づくり活動発表会」(兵庫県教育委員会)に参加し特色ある学校生活のポスターセッションを行った。また「白雪蔵祭り」(小西酒造)において課題研究のプレゼンを行った。目標値を25回とし、SGHの取組を県内外で発表する。							
i	外国語によるホームページの整備状況							
	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	×	×						○
	目標設定の考え方: 平成30年度には整備を完了する。							
j	(その他本構想における取組の具体的指標)							
	2人	4人						10人
	目標設定の考え方: 目標値を10人とし、教職員は長期休業中を利用して自己研鑽に努める。							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	953	945	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							